

学長スピーチ

新入生の皆さん入学おめでとうございます。この広島の地で新たな人生の一步を踏み出す新たな Eikei Friends の皆さんを心より歓迎します。

新型コロナ感染症の先行きも不明確な中で、ウクライナへのロシアの侵攻等、世界は混迷の度を深めているように見えます。社会のあり方を俯瞰的に眺め、自らの夢を形に紡いでいく、混沌の中から糸を形に紡ぐことができる、そんな力が求められています。

コロナ対策として様々な制限が課される中で、一期生の学生たちは着実に学びを深め成長してくれています。学業だけでなく、鍵山さんが文科省の全国青年弁論大会で優良賞を受賞し、福高さんが外務省の国際問題プレゼンテーションコンテストのファイナリストになる等、積極的に学外のイベントにチャレンジしていますし、学生2人で一般社団法人を設立した一期生もいます。確実に成長している様子を本当に心強く思っています。

皆さんは大工と棟梁という言葉を知っているでしょうか。日本家屋を建てる時に、木材を加工したり組み立てたりする職人が大工で、それを指図して、設計した家を建てていく親方が棟梁です。

木材の加工技術は重要ですが、立てるべき家屋の構想と適切な段取りがなければ家は完成しません。

大工の腕を磨くことは個々の学問や技能を究めていくことに対応します。大工の腕を組み合わせ構想した家を完成させるのは棟梁の役目です。個別の学問の知識を束ねて新しい価値を生み出していくためには棟梁の役割を果たす人が不可欠です。

叡啓大学で学ぶ皆さんには大工ではなく、棟梁になってほしい。個々の学問を学ぶことによって社会を俯瞰的にとらえる力をつけ、望ましい社会を夢に描き、夢を形に紡ぐために必要な技能を身につけることによって、新しい価値を作り出し、組織や社会をリードする人です。また、叡啓大学には様々な地域や国から Eikei Friends が集っています。

広島という地域の中で男女や国籍等の様々な差を超えた視点で物事を考えることができます。自分とは異なる背景を持った人の異なる視点を理解し、場合によっては協働し、新しい社会をデザインすることにチャレンジしましょう。

新しい学びと Eikei Friends との出会いの中で学生生活が意義あるものになるよう私達教職員も全力を尽くすつもりです。